

**秋田県社会福祉審議会児童福祉専門分科会**  
**平成25年度第1回 子ども・子育て部会 要旨**

日時：平成25年10月22日(火)14:30-16:40

場所：議会棟大会議室

**【出席者】**

**(審議会委員)**

秋山肇、渡部基、金子賢男、釜田一、柴田一宏、田岡清、高田知恵子、寺田恵美子、  
成田多恵子、鈴木尚子、山崎純、佐藤リサ子、小玉由紀

**(県)**

佐藤健康福祉部次長、松田子育て支援課長、廣野幼保推進課長

**1 開会**

**2 健康福祉部次長あいさつ**

**3 部会長、副部会長の互選について**

互選により、部会長に高田知恵子委員、副部会長に釜田一委員が選任された。

**4 案件**

事務局より次の案件について一括して説明した。

- (1) 次世代育成支援行動計画「すこやかあきた夢っ子プラン」の進捗状況について
- (2) 子ども・子育て支援新制度について
- (4) 今後のスケジュールについて

**5 意見交換**

概要は次のとおり

●田岡委員

秋田市には子育て支援拠点が5箇所あることになっているが、どのようなものか

○子育て支援課長

アルヴェやキタスカなど地域子育て支援センターやひろばの機能を持っている施設である。

●小玉委員

市が託児を受け付けている幼稚園や保育所などのサービスの方が安いことから、子育

てサポーターへの需要がない。新制度ではどのようになるのか。

○ 幼保推進課長

新制度では満3歳以上には保育の受け皿を準備する。0・2歳児に対しては小規模保育で対応する。一時預かりは子ども・子育て支援事業の対象になっており、市町村が財政支援を行い、そのサービスを提供できる施設を支援する。

子ども・子育て支援事業の基準は、後で国から示されることになっており、それを踏まえ市町村が基準を決めることになる。

● 金子委員

説明時間が長かった、緊張を維持することが難しく、素人なので負荷を感じる。今後は項目毎に質疑を入れるなどの工夫を求めたい。また、横文字は使わない方がよい。「ワークライフバランス」とは何か。

○ 幼保推進課長

幼保 職業生活（ワーク）と家庭生活（ライフ）の両立・調和（バランス）ということで、計画の任意記載事項の一つを指して用いた。

● 秋山委員

子ども・子育て支援の内容は県庁（知事部局）と教育委員会に跨がっているので、双方でうまくやっていくことが重要である。

新制度については、県の出前講座などを活用して地域の研修会で、県民にわかりやすく説明して欲しい。

● 柴田委員

プランについて未達成のものがあるが、今後どのように対応する方針か、計画に引き継がれるのか教えて欲しい。

○ 子育て支援課長

平成26年度まで達成に向けて努力を続けていくし、検証もしていく、次期プランにも反映させていく。25年、26年とこの2年で意見や要望を踏まえより良い方向に持って行く。

● 寺田委員

子育て支援は小学校入学前と小学校の間で途切れているとの印象を受けるが放課後児童クラブ等もあるので広く捉えることが必要である。「資料8子ども・子育て支援法の基

本指針」の6頁で学童期に関する記述があり良かった。

親の支援の充実については指針で強調されており、放課後児童クラブの指導員の質の向上も図っていききたい。

●成田委員

保育や放課後児童クラブなど制度が整っている都市部は良いが、地方はそのようなものが不足していることが多い。新しい制度を実施してだけでなく、これまで行われている取組を活かしてもらいたい。一時預かり制度を今作っているような話だったが、今行われている一時預かり事業はどうなるのか。

○幼保推進課長

補助の枠組みは新しく作られるが、一時預かり事業そのものは今行われているものを踏襲していく。

●山崎委員

基本指針に謳われる「子どもの最善の利益」という考え方が素晴らしい。今後の計画作りにあたって念頭に置くべきものである。

また、計画策定にあたってはニーズ調査が行われるということだが、それだけで子ども・子育て支援のニーズを捉えきれぬのか。地域の実情にあった調査項目の設定が必要だが、県ではどう対応していくのか。

○幼保推進課長

調査のひな形が国から示されているが、それを実施したからと言ってニーズが把握出来るとは限らないことを市町村担当者には伝えている。いずれにせよ、内容については各市町村が判断するものであるが、市町村とはよく連携を取りながら、制度移行について支援していききたい。

●渡部委員

新制度を利用する保護者がわかりやすいような説明が必要である。新制度のわかりやすい資料があればいい。

幼保と小学校の連携を進めていることもあり、幼稚園や小学校の先生にも理解しやすい説明をお願いしたい。

●佐藤委員

にかほ市では6月議会に子ども子育て会議の案件を議決するなど県内でも速い動きをしたのではないかと。国から示されるニーズ調査のひな形を待ちアンケート調査を進めて

いるところ。ニーズ調査について、本市の子ども子育て会議の委員から、国の調査票のひな形はアンケートの量が多いという話があった。記入する保護者も大変だと思う。県の計画に市町村の意見を反映させていきたい。

●鈴木委員

現場では保育士不足である。その解決のためには処遇改善が必要であり会議で話していきたい。新制度については現場で研修を開くなど勉強していきたい。

●高田部会長

スケジュールに従って部会の委員みんなで充実したものとしたい。幼稚園関係者が不参加だったので、次は参加できるような形にしていきたい。

6 閉会